

混声合唱のよろこび「桜の季節」

本単元で育成する資質・能力

情報収集力、情報活用力、表現力・コミュニケーション力

日時 平成28年9月27日(火) 6校時(14:00~14:50)
 場所 音楽室
 学年・組 第1学年A, B組(男子16名, 女子9名, 計25名)

題材について

本題材は、中学校学習指導要領音楽の第1学年の内容「A表現」の指導事項アとウの内容、〔共通事項〕のうちア(音色, リズム, 旋律, テクスチャ, 強弱)を扱ったものである。

「桜の季節」は、混声3部合唱の曲である。EXILEのATSUSHIが作詞作曲し、2014年のNHK全国音楽コンクールの課題曲にも選ばれた曲である。冒頭は、ソプラノのメロディーから始まり、続いてアルトとテノールが順に入る。ソプラノ, アルト, テノールで一緒のリズムのところもあるが、パートによってはオブリガードのように動いている所もあれば、全く違うリズムで動いているところが特徴的な曲である。よって、各パートがどのような表現で歌うのか、曲全体のバランスを見ながら考えさせるのに適している題材教材である。

また、歌詞は卒業をテーマにしたものであるが、普通の学校生活の中で共感できる歌詞であり、今一緒に過ごしている仲間がかけがえのない存在であることに改めて気づくことができる魅力的な歌詞である。曲には歌詞の内容に応じた強弱表現が見られ、歌詞と強弱の関係について考えることで、強弱についての理解の幅を広げることができる題材である。

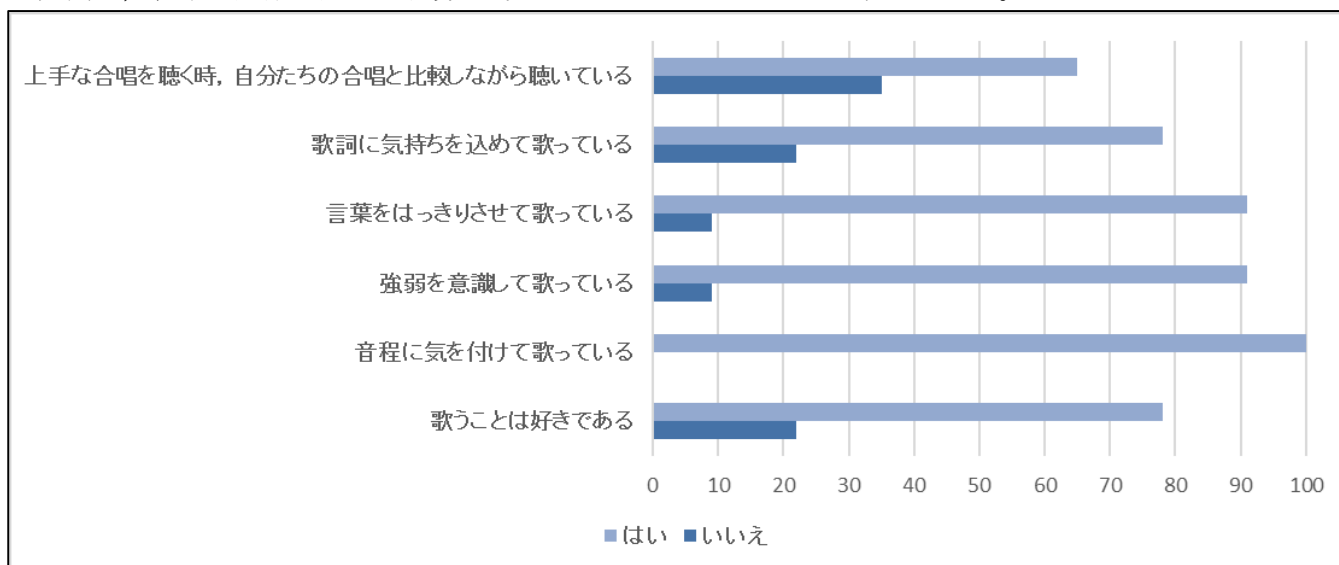
中学1年生の2学期は、男子の声変わりも進み、本格的に混声3部合唱ができるようになってくる時期である。このような時期に、パートの表現について考えたり、歌詞に共感し歌詞から歌い方を考えて工夫したりすることは、今後より深い表現で混声3部合唱をするための礎を養うことができると考える。

生徒観

本学年の生徒は、真面目で協調性があり、学力が高い生徒が多い。「歌うことが好きですか」という質問に対して「はい」と答えた生徒は78%であり、歌唱に対して意欲・関心を持っている生徒が多い。「歌唱の時には、音程に気を付けて歌っている」という項目では、「はい」と答えた生徒は100%であった。また、「歌唱の時には強弱に気を付けて歌っている」や、「言葉をはっきりと歌うことに気を付けて歌っている」という項目では、「はい」と答えた生徒はともに91%、「歌詞を大切にし、気持ちを込めて歌っている」という項目では、「はい」と答えた生徒は78%と、様々な音楽的要素に気を付けて歌唱表現をしている生徒が多い。しかし、「CDの範唱を聴く時、自分たちの合唱と比較しながら聴いている」という項目では、「はい」と答えた生徒は65%であった(グラフ①)。

生徒たちは、小学校6年生の3学期から混声3部合唱に挑戦してきた。その際も、自分たちの合唱を録音し客観的に聴き課題を見つけるということを行い、どの生徒も自分なりに課題を見つけることはできていたが、音楽の用語を正しく使って説明できる生徒は限られていた。本年、1学期に扱った混声3部合唱を通して、歌詞と強弱の関係について考えた時にも、積極的に関係性を見つけようとしていた。しかし、それを言葉で説明するとなると難しい生徒もいた。よって、自分たちの演奏とプロの演奏というわかりや

すい比較を通して、音楽を形作る諸要素を実感し、自分たちの合唱をよりよくするために何が必要か課題を見出し、音楽の用語を用いて自分の考えを述べることができるようにしたい。



グラフ①

指導改善のポイント

【本校の育成しようとする資質・能力】

- | | | |
|-----------|-----------|-----------------|
| ○課題設定・解決力 | ○情報収集・活用力 | ○表現力・コミュニケーション力 |
| ○主体性・積極性 | ○自らへの自信 | |

■単元学習後の具体的な姿に到達するための指導

生徒が課題意識を持ち、めあてを設定したり、既習事項から習得したことを用いて説明や記述をしたりできるようにするために、日々の授業において、次の(1)～(4)のことを継続して取り組む。

- (1) 課題設定の場面で、生徒に興味や疑問を持たせる工夫をし、生徒自らの課題意識へとつなげ、「めあて」を持たせる。
- (2) 個人思考の場面では、しっかり時間を取り、音楽を形作っている諸要素を適切に用いて自分の考えを記述させる。
- (3) 集団思考の場面では、
 - ① 発言者には、音楽を形作る諸要素を実感し、自分たちの合唱をよりよくするために何が必要か課題を見出し、音楽の用語を用いて自分の考えを説明させる。
 - ② 聞く側には、他者の考えを自分の考えと比較し、ワークシートにペンの色を変えてメモさせる。
- (4) 授業のまとめの場面では、その時間の目標に対する自分の意見や考えを、生徒の言葉で説明させる。

■小学校及び既習との連続性を生かした指導

<小学校>

3, 4 年生

- 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。
- 音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、変化などの音楽の仕組みを感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じる。

5, 6 年生

- 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。
- 音色、リズム、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、変化や音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを感じ取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じる。

<中学校>

1 年生

- 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。
- 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感する。

2, 3 年生

- 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。
- 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感する。

■広島版「学びの変革」アクション・プラン（アクティブ・ラーニング）の取組について

<主体性>

- 生徒自らに目標を設定させる。（A・L視点①）
 - ・授業の導入で生徒が「なぜだろう？」と考えようとする必然性を与えたり、自ら練習目標を立てることで探究心に火をつけ、生徒の主体性を引き出す。
- 既習事項を活用し、情報を収集させる。（A・L視点②）
 - ・既習事項から、積極的に情報を収集し、主体的に課題解決を図ろうと探究する態度を養う。
- 身近なことと関連づけて興味をもたせる。（A・L視点③）
 - ・普段の学校生活が歌詞になっているような、日常の生活と結びつけた教材を扱うことで、興味や関心を高め、生徒の学習の主体性を高める。
- 授業の最後に振り返りを書かせる。（A・L視点④）
 - ・生徒が自分自身の成長を感じたり、自分が学んだことの意味を理解したりすることで学ぶことへの主体性を高める。

<協働性>

- 意図的にグループで話し合いをさせる。（A・L視点⑤）
 - ・他の生徒の話をしっかり聞かせたり、自分の考えを説明させたりすることで、一人では到達できなかった深い思考に到達することができ、生徒と生徒の協働性を高めることができる。
- 学習の振り返りをさせる。（A・L視点⑥）
 - ・授業の最後に振り返りを書かせることで、生徒の理解状況を把握したり、教師自らの授業を振り返るきっかけとしたりすることで教師と生徒の協働性を高める。

題材の目標と評価規準

<題材の目標>

- ・歌詞の内容や曲の構成に関心を持ち、主体的に活動に取り組むことができる。
- ・音楽の要素を知覚し、思いや意図をもって音楽表現をすることができる。
- ・自分たちの演奏を客観的に聴き、よりよい表現にするために必要なことを分析することができる。

<評価規準>

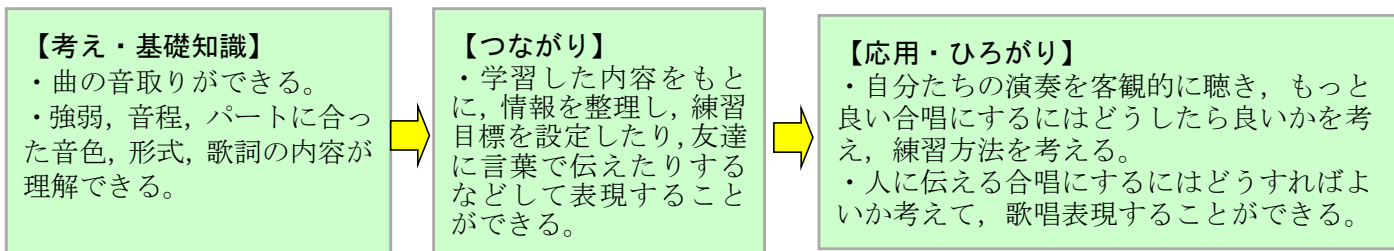
ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ・声部の役割や全体の響きに関心をもち、音楽表現を工夫しながら合わせて歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 ・声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。

指導と評価の計画

○本単元で付けさせたい「資質・能力」と評価規準

資質・能力	評価規準		
	C	B	A
情報収集力	楽譜に書いてある情報を読み取り、耳で聞いた情報を書き出すことができる。	楽譜に書いてある音楽的な情報を読み取り、耳で聞いた音楽的情報を書き出すことができる。	楽譜に書いてある音楽的な情報を正確に読み取り、耳で聞いた音楽的情報を適切な表現で書き出すことができる。
情報活用力	学習した内容を用いて、楽譜上の音楽を形づくっている要素や要素間の関係を把握し、歌唱表現することができる。	学習した内容を用いて、楽譜上の音楽を形づくっている要素や要素間の関係を理解し、歌唱表現することができる。	学習した内容を用いて、楽譜上の音楽を形作っている要素や要素間の関係を理解し、歌唱表現することができる。
表現力・コミュニケーション力	自分たちの表現を高めるために、コミュニケーションを図りながらパート練習に参加することができる。	自分たちの表現を高めるために、音楽の諸要素について用語を使ってコミュニケーションを図りながらパート練習に参加することができる。	自分たちの表現を高めるために、音楽の諸要素について適切な用語を使ってコミュニケーションを図りながらパート練習に参加することができる。

【混声合唱のよろこび「桜の季節」のICEモデル】



(全10時間)

次	学習内容 (時数)	評 価					
		関	表	技	鑑	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1	単元の見直しを持たせる	課題の設定					
	・人に伝える合唱にするには何をすべきか考えて、積極的に歌唱表現することができる。	◎	○			<u>関心・意欲・態度</u> ・「人に伝える合唱にすること」に関心を持ち、既習の内容を活用して考えている。 (行動観察)	情報収集力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
2	音取り、歌詞、音楽表現と音楽的要素の確認	情報の収集					
	・積極的にパート練習をし、音取りができる。	◎		○		<u>関心・意欲・態度</u> ・パートの目標をもち、協力し合って音取りをしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・1番の合わせをすることができる。	◎		○		<u>関心・意欲・態度</u> ・パートで協力し合って音取りをし、合唱を合わせられるようにしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・曲全体の合わせをすることができる。	◎		○		<u>関心・意欲・態度</u> ・パートで協力し合って音取りをし、合唱を合わせられるようにしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・歌詞の内容や言葉の発音を意識して歌うことができる。	○	◎			<u>表現の創意工夫</u> ・歌詞の内容や、言葉の発音に関心を持ち、相手にわかりやすい発音を意識して表現している。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・形式や強弱を意識して歌うことができる。	○	◎			<u>表現の創意工夫</u> ・形式と強弱の関係を理解し、盛り上げるところをしっかりと盛り上げて歌っている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
・伴奏との関わりや、曲全体から考えて、パートに合った歌い方を意識して歌うことができる。	○		◎		<u>技能</u> ・声部の役割や曲全体を生かした音楽表現をしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (ワークシート, 行動観察)	
3	録画したものを聴いて考える。	整理・分析					
	・授業の最後に録音をするために、今までの学習を思い出しながら歌うことができる。		○	◎		<u>技能</u> ・声部の役割や曲全体を生かした音楽表現をしている。 (ワークシート, 行動観察)	情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (行動観察)
	・自分たちの演奏とプロの演奏を比較し、音楽的に足りない部分を分析し、練習に生かすことができる。(本時)		◎		○	<u>表現の創意工夫</u> ・音楽を形づくっている要素や、歌詞の内容を相手に伝えることを意識し、想いや意図を持って音楽表現している。 (ワークシート, 行動観察)	情報収集力 情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (ワークシート, 行動観察)
4	パフォーマンス課題	表現・まと					
	・集めた情報を基に、相手に伝える合唱にするにはどのようにすれば良いか考えて、歌唱		◎	○		<u>表現の創意工夫</u> ・歌うときの姿勢や、音楽を形づくっている要素、歌詞の内容等でどのように相手に伝えるかを意識し、想いや意図を持って音楽表現している。 (ワークシート, 行動観察)	情報活用力 表現力・コミュニケーション力 (ワークシート, 行動観察)

表現することができる。						
-------------	--	--	--	--	--	--

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	情報収集力, 情報活用力, 表現力・コミュニケーション力
教科の評価基準	聴く人を感動させる合唱について自分の考えをまとめ, 歌唱表現できる。

パフォーマンス課題のシナリオ

今週末に三和中学校の文化祭があり, みなさんはプログラム3番で全校合唱を披露します。たくさんのお客さんが見に来られます。来てくださったお客さんに感動してもらうためにも, 「人に伝わる合唱」をテーマにどんな合唱を目指すのか考えて歌い, 全校合唱を成功させましょう。

<課題>

①人に伝えるためにどんな合唱にしたらよいか, 今まで学習した内容である「歌詞の内容を伝えるには」と「音楽のバランス」を踏まえ100文字程度でまとめる。

②まとめた内容を実技試験で表現する。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述後 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	目指す合唱について2つ以上の楽譜上の音楽的要素を, 適切な表現で記述表現し, その内容を踏まえて適切な表現で歌唱表現している。
2 合格	目指す合唱について2つ以上の楽譜上の音楽的要素を用いて記述表現し, その内容を踏まえて適切な表現で歌唱表現をしようとしている。
1 乗り越えさせたい実態	目指す合唱について楽譜上の音楽的要素を1つ用いて記述表現し, その内容を踏まえて歌唱表現しようとしている。

本時の学習

(1) 本時について

本題材末に設定しているパフォーマンス課題に取り組むためには, たくさんの楽譜上の情報の中から自ら何が必要かを選択し, 歌唱表現を通して第三者に伝えるという力が必要である。本時では, 自分たちの演奏を客観的に聴くことによって, 音楽を形作っている諸要素を実感し, 聞く人を感動させる合唱にするために何が必要か課題を見出させ, 目標を設定し歌唱表現させる。

(2) 本時の目標

- 自分たちの合唱とプロの合唱を比較し, よりよい合唱にするために何が必要か課題を見出させ, 目標を設定して歌唱表現することができる。



(3) 本時の評価規準

- 分析したことを, 音楽の用語を用いて表現することができる。
- 分析したことを基に目標を設定し, 歌唱表現することができる。

(4) 準備物

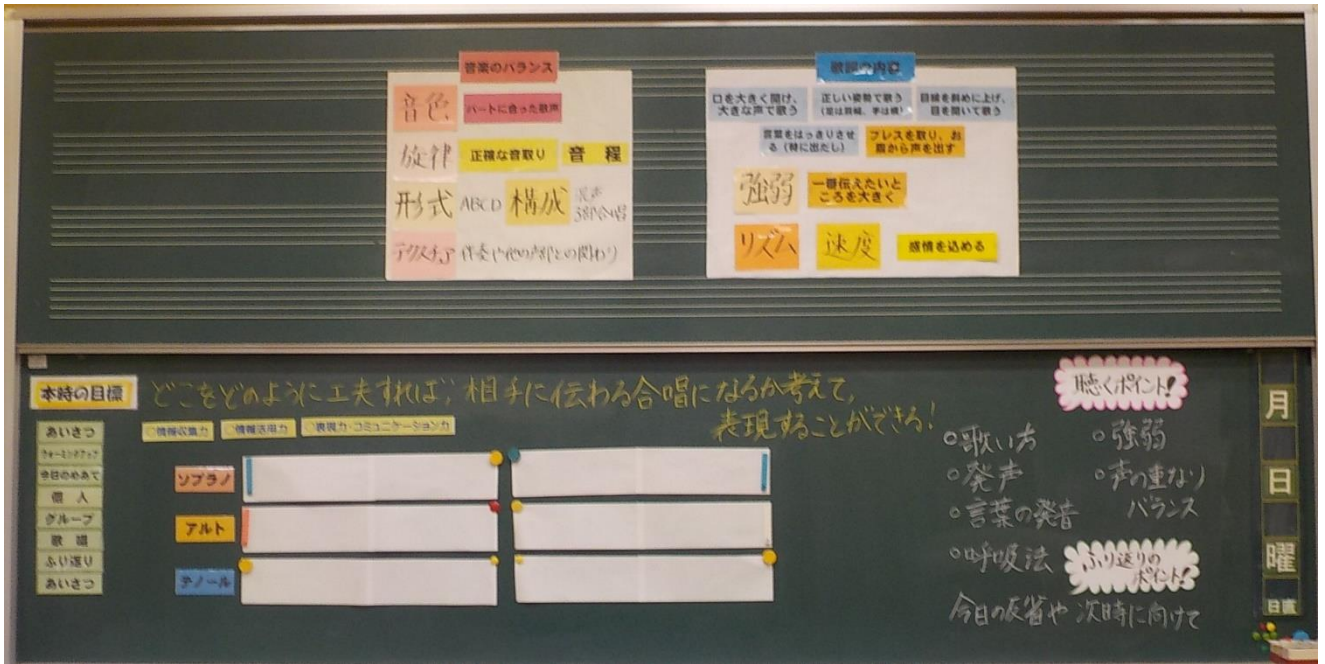
- 楽譜, ファイル, ワークシート, 拡大模造紙, 紙, ペン, 録音機, CD

(5) 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 ウォーミングアップ [5分]			
○ブレストレーニングをする。 ○「Believe」を、手話を付けて歌う。	◇前で手話の手本をする。 ◇姿勢よく、口を大きく開けて、息をしっかりと吸って歌わせる。 ◇ペアで、対面でさせて、アドバイスをさせる。		
2 課題意識を持つ。 [2分]			
○前回録音した「桜の季節」の出来栄を考慮する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">課題設定</div> ○本時の課題をつかむ	◇既習事項「曲の構成」, 「歌詞の内容」を掲示する。		
どこをどのように工夫すれば、相手に伝わる合唱になるか考えて、表現することができ			
3 情報を収集し、解決の見通しをもつ。 [10分]			
○前時に録音した自分たちの演奏と、プロの演奏を比較して聴く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">個人思考</div> ○ワークシートに「どうすればよいか」を書く。	◇聴く視点 (発声, 言葉の発音, 呼吸法, 強弱, 声の重なり及びバランス) を伝える。 ◇自分たちの演奏とプロの演奏を比較し, 共通点・相違点から工夫したいところを見付けさせる。 ◆机間指導を行い個別に支援する。		
予想① 歌い方 (発声・発音・呼吸法) ・歌詞が聴こえにくいので、口を縦に開けて歌う。 ・お腹が膨らむまで息を吸って、お腹から声を出す。 ・のどを開く。 ・頭のとっぺんから声が出るようなイメージで歌う。 ・言葉がはっきり聴こえないので、最初の言葉をはっきり歌う。 ・Sの子音をもっと響かせる。 ・鼻濁音を意識する。		音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、要素や構造と曲想との関わりを感じ取って、自分たちの合唱を分析しながら聴くことができる。(ワークシート)	
予想② 声の重なり方及びバランス ・ A はソプラノがメロディーなので、ソプラノが引き立つように歌う。 ・ B からはみんな同じリズムで歌うので、息を合わせて歌う。 ・ C は曲の山場なので、今までよりもさらにリズムカルに、横隔膜やお腹を意識して歌う。			

<p>予想③ 強弱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aの部分はアルトとテノールは <i>p</i> のなりに強く聴こえるから、やさしく歌う。 ・Bは全員 <i>mf</i> になっているので、全員でAより強く歌う。 ・Cからは曲の山場であることが伝わるように歌う。 ・曲の終わりは、<i>pp</i> だから、切ない気持ちを消えるように表現する。 			
<p>4 情報を整理・分析し、課題解決をする。〔28分〕</p>			
<p>集団思考</p> <p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時取り組みたい課題を話し合い、決める。 <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○グループの意見を発表する。 ○本時取り組むパートの課題として掲示する。 <p>【グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○パート練習をする。 ○全員で合唱する。 <p>個人思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ○録音を聴き、ワークシートに気付きを書く。 ○ワークシートに記述したことを意識して、歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇各パートを2グループに分ける。 ◇リーダー中心に話し合わせる。 ◇リーダーには、発言が少ない生徒の発言を促したりして、グループ内で全員が発言できるようにさせる。 ◇全体での話し合いの時間をパートリーダーに伝える。 ◇本時、取り組む課題に対して、パートで表現を工夫させる。 ◇パートの目標に応じた評価をする。 ◇録音をする。 ◇1回目の演奏よりも良くなった点、さらなる改善点を見付けさせる。 ◆机間指導を行い個別に支援する。 ◇録音をする。 	<p>A・L ①</p> <p>A・L ⑤</p> <p>音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きを感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(ワークシート、観察)</p>	<p>情報活用力 (ワークシート、観察)</p>
<p>5 学習のまとめをする。〔5分〕</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ○まとめ、振り返りを書く。 ○次時は文化祭の予行練習で歌うことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇今日の反省や次時に向けて取り組みたいことなど、振り返りの視点を与える。 ◇これからの学習を確認する。 	<p>A・L ④</p> <p>A・L ⑥</p>	

板書計画



検 証

検証の方法

- 平成 28 年度 2 学期期末テストの結果を分析する。
- 題材末のパフォーマンス課題，ワークシートの内容と歌唱表現を分析する。